

メモリアルデーブレンディング特別集会

主題：

新しい復興が大いに必要である

標語：

わたしたちがこの時代を終結させる
新しい復興の中へと入ることができるのは、
神聖な啓示の最高峰に到達することにより、
神・人の生活をするにより、
キリストの天の務めにあずかって、
神にしたがって神の羊の群れを牧養することによります。

神がわたしたちに与えた神聖な啓示の最高峰は、
神の永遠のエコノミーの啓示です。
それは、神が人と成り、人が神となるということです。

わたしたちはキリストの天の務めに協力して、
神の羊の群れとしての神の召会を牧養し、
キリストのからだを建造し、
新しい復興を持つ必要があります。

わたしたちは神にしたがって牧養するために、
神と一になり、神で構成され、神を生き、神を表現し、
神を代行し、神を供給する必要があります。

メッセージ 1

主と協力して、新しい復興をもたらし、この時代を終結させる

聖書：ハバクク 3:2. 使徒 26:19, 22. マタイ 14:19, 22-23.

ピリピ 1:19-22, 25. ヨハネ 21:15-17

- I. 神の選民の間に、復興されたいという切望が常にあります——ハバクク 3:2. ホセア 6:2. ローマ 8:20-22. 詩 119:25, 50, 107, 154. ヨハネ 6:57, 63. II コリント 3:3, 6.
- II. わたしたちが新しい復興の中へと入ることができるのは、神がわたしたちに与えた神聖な啓示の最高峰、すなわち、神の永遠のエコノミーの啓示に到達することによります（I テモテ 1:3-4. I コリント 9:17. 使徒 26:19, 22）。これが、神が人を創造したことにおける、また神が彼の選ばれた人を対処することにおける、神の目的についての大きい質問に対する大きい答えです（創 1:26. ヨブ 10:13. 参照、エペソ 3:9）：
 - A. 神の心の中に隠された奥義は、神の永遠のエコノミーです（エペソ 1:10. 3:9. I テモテ 1:4）。神の永遠のエコノミーとは、神の永遠の意図と神の心の願いであって、それはご自身を彼の神聖な三一において、御父として、御子の中で、その霊によって彼の選ばれた人々の中へと分与して、彼らの命また性質とさせることです。それによって、彼らは彼の複製として彼であるのと同じになり（ローマ 8:29. I ヨハネ 3:2）、有機体、新しい人としてのキリストのからだとなり（エペソ 2:15-16）、また神の豊満、神の表現となって（1:22-23. 3:19）、新エルサレムにおいて究極的に完成します（啓 21:2—22:5）。
 - B. 神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となり、キリストのからだを生み出し建造して、新エルサレムを究極的に完成するためです。これは全聖書の本質、聖書という「箱」の中の「ダイヤモンド」、神の永遠のエコノミーです——創 1:26. ヨハネ 12:24. ローマ 8:29：
 1. 神は人の人性にあずかることによって、肉体と成ることを通して人と成りました。人は神の神性にあずかることによって、造り変えを通して、神格においてではなく命と性質において神となります——ヨハネ 1:14. II コリント 3:18. コロサイ 3:4. II ペテロ 1:4. ピリピ 2:5. ローマ 8:29. ヘブル 2:10. エペソ 1:5. ローマ 8:19. I ヨハネ 3:2. ヨハネ 1:12-13。
 2. この神と人のロマンスは、全聖書の主題、神のエコノミーの内容、全宇宙の秘密です——雅 1:1. 6:13. 参照、ハバクク 1:1. 2:4. ローマ 1:17：
 - a. キリストは神であり、また人であり、彼の造り変えられた愛する者は人であり、また神です。彼らは命と性質において同じであり、互いに完全に符合しています。

b. 三一の神は究極的に完成されて夫となり、三部分から成る人は造り変えられて花嫁となります。彼らは一組の夫婦、団体の、大いなる神・人となります——啓 21:2, 9. 22:17 前半。

C. 神の中心的な啓示、また主の回復の中心的な啓示とは、神が肉体と成り（ヨハネ 1:1, 14）、肉体が命を与える霊と成り（I コリント 15:45 後半）、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って（啓 1:4, 3:1, 4:5, 5:6）、召会を建造し（マタイ 16:18）、召会がキリストのからだとなり（エペソ 4:15-16）、新エルサレムを究極的に完成するということです（啓 21:2, 9. 22:17 前半. 参照、創 2:22. ヨハネ 19:34）。

D. 神と人は一つの実体となります。その一つの実体は、神性と人性のミングリングであり、新エルサレムにおいて究極的に完成し、全聖書の結論となります——啓 21:3, 22, 2, 9. 参照、レビ 2:4-5. 詩 92:10。

E. 「わたしが望むのは、全地のすべての召会の聖徒たち、特に同労者たちと長老たちが、この啓示を見て立ち上がり、神がわたしたちに新しい復興、歴史において決してなかった復興を与えてくださるようにと祈ることです」——「歴代志上、下ライフスタディ」、第 2 編。

Ⅲ. わたしたちが神・人の生活、すなわち、キリストのからだの実際を生きることを実行するなら、自然に団体の模範、すなわち神のエコノミーの中で生きる模範が建て上げられます。この模範は、召会の歴史における最大の復興となり、主の再臨をもたらします——詩 48:2 とフットノート 1. 啓 3:12, 21 :

A. 神が必要とするのは、団体の人々が神の恵みによって、神聖な啓示の高嶺を通して起こされ、この啓示にしたがった生活をするということです。復興は、わたしたちが見てきたビジョンを実行することです。

B. キリストに従う者たちが（マタイ 5:1, 28:19）、弟子として構成されたのは、地上でのキリストの人の生活を通してでした（キリストの人の生活は神・人の原型であり、人性においてご自身を否むことによって神を生きました——ヨハネ 5:19, 30）。これは、人についての彼らの観念を徹底的に変えました（ピリピ 3:10, 1:21 前半）。

C. わたしたちの生活は、第一の神・人であるキリストの生活の原型の複写、複製であるべきです——I ペテロ 2:21. マタイ 11:28-29. エペソ 4:20-21. ヨハネ 17:4, 5:17. ピリピ 1:19-22, 25。

D. 弟子たちの中へと息吹き込まれた命と実際の霊は、彼らが三年半の間、主と共にいたとき、主について観察してきたことのすべての実際へと導きました——ヨハネ 16:13, 20:22 :

1. 第一の神・人の務めの開始の時、彼はバプテスマされてすべての義を成就し、彼の肉（彼の人性——ヨハネ 1:14. ローマ 1:3, 8:3）によれば、彼が死と葬

り以外に役に立たないことを承認しました（マタイ 3:15-17）。

2. 彼は五つのパンと二匹の魚で五千人を養った奇跡の中で、彼から学ぶようにと（マタイ 11:29）、彼の弟子たちを訓練しました。彼が「天を見上げて」、五つのパンと二匹の魚を祝福したこと（14:19）が示しているのは、祝福の源が彼、すなわち遣わされた方ではなく、御父、すなわち遣わす方であることを、彼が認識していたということです（ヨハネ 10:30. 5:19, 30. 7:6, 8, 18）。
 3. 主は群衆と共に奇跡の結果にとどまっていたのではなく、彼らから去って、ひそかに山上で御父と共にいて祈りました——マタイ 14:22-23. ルカ 6:12。
 4. 主は、神と接触する生活をして（マルコ 1:35. ルカ 5:16. 6:12. 9:28. ヘブル 7:25）、絶えず神の臨在の中で生き（使徒 10:38 後半. ヨハネ 8:29. 16:32）、また人と接触する生活をして、神を彼らの中へと供給し、彼らを神の新約エコノミーのヨベルへともたらしめました（ルカ 4:18-19. ヘブル 8:2. 参照、創 14:18. 使徒 6:4）。
 5. 彼は、この世の支配者であるサタンが、彼の中では何も持たない（何の立場もなく、何の機会もなく、何の望みもなく、いかなることにおいても何の可能性もない）人でした——ヨハネ 14:30 後半, 参照、20 節. II コリント 12:2 前半. コロサイ 1:27. II テモテ 4:22. ヨハネ 3:6 後半. 4:23-24. I ヨハネ 5:4, 18。
- E. 主の模範にしたがって神・人の生活をする唯一の道は、わたしたちの全存在をミングリングされた霊に付け、ミングリングされた霊にしたがって歩き、生活し、存在することです——ローマ 8:2, 4, 10, 6, 11, 16. I コリント 6:17. ローマ 10:12. ガラテヤ 5:25. エペソ 6:17-18. I テサロニケ 5:16-20. I テモテ 4:6-7. II テモテ 1:6-7。
- F. 「わたしたちはみな、神・人の生活をしたと宣言すべきです。最終的に、神・人は勝利を得る者、勝利者、エルサレムの中のシオンとなります。これは歴史において決して見られたことがない新しい復興をもたらす、これはこの時代を終結させます」——「歴代志上、下ライフスタディ」、第3編。
- IV. わたしたちが新しい復興の中へと入ることができるのは、キリストの天の務めにあずかって、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養して、神の羊の群れを顧みることによります。神の羊の群れは召会であり、キリストのからだという結果になります。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併することです——ヨハネ 21:15-17. I ペテロ 2:25. 5:1-4. ヘブル 13:20-21. 啓 1:12-13 :
- A. わたしたちは、主イエスの務めにおける模範にしたがって人々を牧養し、神の永遠のエコノミーを完成する必要があります——マタイ 9:36. ヨハネ 10:11. ヘブル 13:20. I ペテロ 5:4 :
1. 神の全体的な救いにおける神の新約エコノミー全体の内容とは、人の子とし

てのキリストがわたしたちを罪から贖うことによってわたしたちをはぐくみ、彼の死を通して法理的な贖いを完成し（Iテモテ 1:15. エペソ 1:7）、神の御子としてのキリストがわたしたちを養い、神聖な命をわたしたちの中へと豊かに分け与えて、彼の復活の中で有機的な救いを遂行するということで（ヨハネ 10:10. Iコリント 15:45 後半. エペソ 5:29）。

2. わたしたちが御父の愛し赦す心と、救い主の牧養し捜す霊を持たないことが、わたしたちが実を結ばないことの原因です——ルカ 15:1-24。
 3. わたしたちはイエスの人性の中で、人々をはぐくむ（彼らを幸いにし、喜ばしく心地良く感じさせる）必要があります（マタイ 9:10. ルカ 7:34）。わたしたちはキリストの神性の中で、人々を養う（キリストの三つの時期の務めにおける、すべてを含むキリストをもって彼らを養う）必要があります（マタイ 24:45-47）。
 4. キリストがサマリアを通過し、ことさらスカルに迂回しなければならなかったのは、一人の不道德な女を得て、ご自分に飲むものを与えるよう彼女に求めることによって彼女をはぐくみ、命の水の川としての流れる三一の神をもって彼女を養うためでした——ヨハネ 4:3-14. 啓 22:1。
 5. 罪のない方として、彼は姦淫の女を罪定めしたのではなく、彼女をはぐくみました。それは、法理的に彼女の罪を赦し、有機的に彼女の罪から自由にするためでした（ヨハネ 8:1-11, 32, 36）。キリストによって、彼の十字架を通して最初に救われた人が、死刑判決を受けた強盗であったことも意義深いのです（ルカ 23:42-43）。
 6. 主がエリコに行ったのはただ、一人の人、取税人のかしらを訪問し、得るためでした。彼の宣べ伝えることは、牧養することでした（19:1-10）。彼はまた子供たちに手を置くことによって、彼らの両親をはぐくみました（マタイ 19:13-15）。
- B. わたしたちは使徒パウロの模範にしたがって、人々を牧養する必要があります。パウロは養う母、また勧めをする父として聖徒たちを牧養し、神の羊の群れを顧みました——Iテサロニケ 2:7-8, 11-12. Iテモテ 1:16. 使徒 20:28：
1. パウロがエペソの聖徒たちを牧養したのは、「公にも、また家から家でも」、彼らを教えることによって（20 節）、また三年の間、涙をもって聖徒たち一人一人を訓戒し（31, 19 節）、彼らに神のみこころをすべて、余すところなく言い表すことによってでした（27 節）。
 2. パウロは信者たちに親密な心遣いを持ち（IIコリント 7:2-7. ピレモン 7, 12 節）、弱い人の水準に下って来ました。それは、彼が彼らを得ることができるためでした（IIコリント 11:28-29. Iコリント 9:22. 参照、マタイ 12:20）。
 3. 彼は進んで、聖徒たちのために、彼が持っているもの、すなわち彼の所有物を

費やし、彼であるもの、すなわち彼の存在を費やしました(Ⅱコリント 12:15)。彼は注ぎのささげ物であり、ぶどう酒を生み出す者としてのキリストと一であり、自分自身を犠牲にして、他の人がキリストを享受するようにしました(ピリピ 2:17. 士 9:13. エペソ 3:2)。

4. パウロは霊によって歩いて神を尊びました。それは、彼がその霊を供給して、人を尊ぶことができるためでした——Ⅱコリント 3:3, 6, 8. ガラテヤ 5:16, 25. 士 9:9。
5. パウロが彼の教えの中で示したのは、召会が人々を育てる家、彼らをいやし回復する病院、彼らを教え啓発する学校であるということです——エペソ 2:19. Iテサロニケ 5:14. Iコリント 14:31。
6. 彼が啓示したのは、キリストのからだを建造するために、わたしたちが何であっても、何を行なっても、愛が最も卓越した道であるということです——Iコリント 8:1. 12:31. 13:4-8 前半. エペソ 1:4. 3:17. 4:2, 15-16. 5:2. 6:24. 啓 2:4-5. コロサイ 1:18 後半. Iテサロニケ 1:3。
- C. 「わたしたちがこの牧養する負担を受け入れることによって、わたしたちの間に真の復興があるようになることを、わたしは望みます。すべての召会がこの教えを受け入れ、キリストのすばらしい牧養にあずかるなら、回復の中に大きな復興があるようになります」——ウイットネス・リー全集、1994年—1997年、第5巻(上)、「バイタルグループ」、第4編。

神聖な啓示の最高峰に到達する

聖書： I テモテ 1:4. エペソ 1:10. 3:9. ローマ 1:3-4

I. 神がわたしたちに与えた神聖な啓示の最高峰は、神の永遠のエコノミーの啓示です。それは、神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となるためであるということです：

A. 神の永遠のエコノミーの説明である全聖書は、永遠の二つの区分と時間の架け橋において見られる、三一の神の自叙伝です：

1. 三一の神は永遠から時間の中へと入って来て、彼の神性を伴って人性の中へと入り、肉体と成った神となりました。それは人における神の直接の行動のためであり、四福音書において見られ、神の法理的な贖いを完成するためにした——ヨハネ 1:14, 29。
2. 彼は復活において複合の神、「手順を経た」神、すなわちすべてを含む、命を与える霊と成りました。それは使徒行伝と書簡において見られ、彼の有機的な救いを完成するためにした——ヨハネ 1:32, 42. I コリント 15:45 後半. ピリピ 1:19。
3. 未来の永遠において、彼は団体の神、新エルサレムとなります。それは啓示録第 21 章と第 22 章において見られます。
4. 手順を経て究極的に完成された三一の神と、再生され、造り変えられ、栄光化された信者たちとの、宇宙的な、神性と人性の合併は、神の永遠のエコノミーの目標です——ヨハネ 1:51. 啓 21:3, 22。
5. 神の中心的な啓示と主の回復とは、神が肉体と成り、肉体が命を与える霊と成り、命を与える霊が七倍に強化された霊と成って、召会を建造し、それがキリストのからだとなり、新エルサレムを究極的に完成するということです。

B. 神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となるためです。これは、全聖書の本質、すなわち聖書という「箱」の中の「ダイヤモンド」であり、神の永遠のエコノミーです——創 1:26. ヨハネ 12:24. ローマ 8:29:

1. 神は肉体と成ることを通して人と成り、人の人性にあずかりました。人は造り変えを通して神となり、神の神性にあずかります：
 - a. 神の命にあずかる——ヨハネ 3:15. コロサイ 3:4。
 - b. 神の性質にあずかる——エペソ 1:4. II ペテロ 1:4。
 - c. 神の思いにあずかる——エペソ 4:23. ピリピ 2:5。
 - d. 神の存在にあずかる——II コリント 3:18 後半. エペソ 3:8。
 - e. 神のかたちにあずかる——II コリント 3:18 前半. ローマ 8:29。
 - f. 神の栄光にあずかる——30 節. ヘブル 2:10。

g. 神の子たる身分にあずかる——エペソ 1:5. ローマ 8:23。

h. 神の出現にあずかる——19 節。

i. 神の様を持つ（神のようになる）—— I ヨハネ 3:2。

j. 神類、神の種類となる——ヨハネ 1:12. ローマ 8:14, 16。

2. この神と人のロマンスは全聖書の主題、神のエコノミーの内容、全宇宙の秘密です——雅 1:1. 6:13。

II. 神聖な啓示の高嶺、すなわち聖書という「箱」の中の「ダイヤモンド」は、一つの啓示、すなわち、神がキリストの中で人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となるためであるということです——サムエル下 7:12-14 前半. ローマ 1:3-4. エペソ 3:17 前半 :

A. 「神が人と成り、人が神となる」ということが神のエコノミーです—— I テモテ 1:4。

B. 神の永遠のエコノミーとは、人を神格においてではなく命と性質において神であるのと同じにし、ご自身を人と一にし、人を神と一にして、彼の表現において拡大し拡張し、彼の神聖な属性のすべてが、人性の美德において表現されるようにするという事です——エペソ 3:9. 1:10 :

1. 神のたいなる喜びとは、人と一になり、人を神格においてではなく命と性質において神であるのと同じにすることです——5, 9 節。

2. 神が人と成ったのは、ご自身の大量の複製を持ち、それによって新しい種類、神・人の種類を生み出すためでした——ヨハネ 1:1, 14. 12:24。

C. 神のエコノミーの成就のために、わたしたちが必要とするのは、神がご自身をキリストの中でわたしたちの命、性質、構成としてわたしたちの中へと建造して、わたしたちを神格においてではなく命と性質において神とすることです——エペソ 3:17 前半. コロサイ 3:4, 10-11。

D. 神が人と成ったのは肉体と成ることを通してでした。人が神となるのは、再生、聖別、更新、造り変え、同形化、栄光化を通してです——ヨハネ 3:5-6. 1:12-13. ローマ 6:19, 22. 12:2. 8:29-30。

III. 神が人と成り、人を神とすることによってのみ、キリストのからだは生み出されることができます。この点が、神がわたしたちに与えたビジョンの高嶺です——ローマ 8:3. 1:3-4. 8:14. 12:4-5 :

A. 神が人と成って人を神としたのは、キリストのからだを生み出すためでした。このからだは三一の神の有機体であり、その究極の現れは新エルサレムです——エペソ 1:22-23. 4:4-6. 啓 21:2, 9-10。

B. 聖書は、人がどのようにして神となって神・人の生活をし、それによって神の有機体となることを見せせています——ローマ 1:3-4. 12:4-5 :

1. この有機体は、神がご自身を人と結合しミングリングして、人を神とするもの

です。

2. 神が人と成り人が神となった結果は一つの有機体です。この有機体はキリストのからだ、すなわち神と人の結合とミングリングです——エペソ 4:4-6, 12。
- C. 神は彼の御子を遣わし、御子は人と成り、神聖な命によって神・人の生活をしました。そのような生活の結果は、神であるのと全く同じである宇宙的な人、すなわち神聖な命によって神・人の生活をする団体の人です——ローマ 8:3. 12:4-5。
- D. キリストのからだの実際は、神と人の結合とミングリングであり、団体の神・人を生かし出すことです——エペソ 4:4-6, 24。

新しい復興のための神・人の生活

聖書：レビ 1:3, 9. 6:8-13. ヨハネ 21:15-17.

I ヨハネ 3:14, 5:1. 2:6. 4:17. ガラテヤ 6:2-3. ローマ 8:2

- I. 神の心の願いは、「イエスにあるあの実際」（エペソ 4:21）、すなわち四福音書に記録されているイエスの神・人の生活の実際の状態が、キリストのからだの多くの肢体の中で、実際の霊によって複製されて、キリストのからだの実際、すなわち、神のエコノミーの最高峰となって、新しい復興を持つことです（20-24 節）：
- A. 四福音書は、神が願っている生活の模範、すなわち神を満足させ、神の定められた御旨を成就することができる生活の鋳型を見せています。イエスは、神の中で、神と共に、神のためにすべての事を行なう生活をしました。神はイエスの生活の中におられ、イエスは神と一でした。これが「イエスにあるあの実際」が意味することです。イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶとは、キリストの模範の中へと鋳込まれること、すなわち、キリストのかたちに同形化されることです——ローマ 8:28-29. エペソ 4:20-21。
- B. わたしたちが主によって成就されつつあるのは、神・人たちとなって、第一の神・人であるキリストの原型にしたがって、わたしたちの天然の命を否むことによって、神聖な命を生きるためです——マタイ 11:29 前半. 17:5 後半. I ペテロ 2:21：
1. 彼は彼の地上の生活の中で、四福音書で啓示されているように、一つの模範を設立しました。次に彼は十字架につけられ復活して、命を与える霊と成りました。それは彼がわたしたちの中へと入って、わたしたちの命となるためでした。わたしたちは彼の模範にしたがって彼から学びます。それはわたしたちの天然の命によってではなく、復活におけるわたしたちの命としての彼によってです——I コリント 15:45 後半. コロサイ 3:4。
 2. わたしたちのクリスチャン生活は、キリストの中にある生活であり、またわたしたちの中のキリストの生活です。わたしたちは鋳型としてのキリストの中におり、彼はわたしたちの命としてわたしたちの中におられます。このようにして、わたしたちはイエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学びます。この実際が、キリストのからだの実際です——I コリント 1:30. II コリント 5:17. 12:2 前半. コロサイ 1:27. ガラテヤ 2:20. ローマ 8:10。
- C. わたしたちは主を愛し、主と接触し、主に祈るとき、福音書で記述されている鋳型、形、模範にしたがって、自動的に彼を生きます。このようにして、わたしたちはこの鋳型のかたちに形成され、同形化されます。これがキリストを学ぶことの意味するものです——マタイ 11:29. ローマ 8:29。

D. わたしたちはミングリングされた霊の中で生きるとき、実際の霊によって、イエスにあるあの実際にしたがって、キリストを学んでいます。わたしたちは、わたしたちの模範としての彼から学びます。それは、彼の伝記がわたしたちの歴史となるためです。新しい人としてのキリストのからだの生活は、福音書において啓示されているイエスの生活と全く同じであるべきです——ガラテヤ 6:17-18. ローマ 1:1, 9. エペソ 4:20-24. ピリピ 2:5. マタイ 11:29. I ペテロ 2:21。

E. 神が主イエスを遣わして人と成らせた目的は、主イエスが神聖な命によって神・人の生活をするためでした。わたしたちは彼を食べるとき、彼のゆえに生きて、彼と全く同じである宇宙的な大いなる人、すなわち、神聖な命によって神・人の生活をする人となります——哀 3:22-24, 55-56. 啓 2:4, 7. ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. エペソ 6:17-18. 詩 119:15。

II. 神を喜ばせる唯一の生活は、キリストが地上で生きた生活を繰り返す生活です。これは、全焼のささげ物としてのキリストの経験の中でキリストを経験する生活です——レビ 1:9. ヨハネ 8:29. II コリント 5:9 :

A. 全焼のささげ物は、絶対に神のためであり、また神の満足のための生活をするキリストを予表します。全焼のささげ物はまた、神の民にそのような生活をさせることを可能にする命であるキリストを予表します——レビ 1:3. 民 28:2-3. ヨハネ 5:30. 6:38. 8:29. ヘブル 10:5-10。

B. 「全焼のささげ物」と訳された言葉は、昇っていくものを示します。この昇っていくことはキリストを指しています（レビ 1:3, 10, 14）。地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きた生活です。なぜなら彼は、神のために絶対的である生活をした唯一の方であるからです（ヨハネ 6:38）。

C. 全焼のささげ物は、「エホバを満足させるかおり」でした（レビ 1:9）。「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は、文字どおりには、「安息や満足の香り」を意味します。満足させるかおりは、満足、平安、安息をもたらす香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。

D. わたしたちの内側のキリストの命は、全焼のささげ物の実際です。これは従順の命、服従の命、命の木の原則にしたがって神に完全に依存する命です——ピリピ 2:8. ヨハネ 5:19, 30. ヘブル 5:8. 10:7。

1. 人が単独で、独立して、神から離れて、神の外側で行動することは罪です。神は、わたしたちがあらゆることでご自身の指示にしたがって行動することを願っています——詩 40:7-8. I ヨハネ 3:4。

2. 「だれでも小さい子供のように神の王国を受け入れない者は、決してその中に入ることはない」（ルカ 18:17）。神は、わたしたちがいつも小さい子供のようになることを願っています。なぜなら、神は、わたしたちがいつも彼に依存

することを願っているからです。自信は神に依存することの敵です。

- E. 正しい祈りを通してわたしたちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、わたしたちは彼に結合され、彼とわたしたちは一になります。キリストがわたしたちの中で生きるとき、彼は彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、わたしたちの中で繰り返します——レビ 1:4. I コリント 6:17. ガラテヤ 2:20。
- F. そのような結合、そのような一体化の中で、わたしたちの弱さ、欠点、落ち度はすべて、彼によって担われます——II コリント 5:21. ガラテヤ 2:20 前半。
- G. わたしたちは主にわたしたちを燃やしていただかなければなりません。それは、わたしたちが常にささげる全焼のささげ物となって他の人を燃やすためであり、また減少させられて灰となり、新エルサレムとなって、神を表現するためです——詩 20:3. レビ 1:16. 6:8-13. I コリント 3:12 前半. 啓 3:12. 21:2, 10-11, 18-21 :
1. 灰は、減少させられて無となったキリストを表徴します。わたしたちは、減少させられて灰となったキリストと一であるので、わたしたちも減少させられて灰となります。すなわち、減少させられて無となり、ゼロとなります——マルコ 9:12. イザヤ 53:3. I コリント 1:28. II コリント 12:11。
 2. わたしたちはキリストと彼の死の中で一体化されればされるほど、自分が灰の堆積となっていることをますます認識するでしょう。わたしたちは灰となるとき、もはや天然の人ではありません。そうではなく、わたしたちは、十字架につけられ、終結させられ、焼かれた人です——ガラテヤ 2:20 前半。
- H. 灰を祭壇の東側、日の出の方向に置くことは、復活を暗示しています——レビ 1:16. ヨハネ 11:25. ピリピ 3:10-11. II コリント 1:9 :
1. 全焼のささげ物としてのキリストにとって、灰は終わりではなく、始まりです。灰は、キリストが死に渡されたことを意味します。しかし、東は復活を表徴します——マルコ 9:31。
 2. わたしたちはキリストの中で減少させられて灰になればなるほど、ますます東側へと置かれます。わたしたちは東側において、太陽が昇ることと、わたしたちが復活の日の出を経験することを確信します——ピリピ 3:10-11。
- I. 最終的に、この灰は新エルサレムとなります——啓 3:12. 21:2, 10-11 :
1. キリストの死は、わたしたちを終わりへともたらし、わたしたちを減少させて灰とならせます。復活の中でこの灰は、神の建造のための尊い材料となります——I コリント 3:9 後半, 12 前半。
 2. わたしたちは減少させられて灰となるとき、三一の神の造り変えの中へともたらしられて、新エルサレムを建造するための尊い材料となります——ローマ 12:1-2. II コリント 3:18. 啓 21:18-21。

Ⅲ. 神の新約の務めを遂行することにおいて、全焼のささげ物の実際としての主イエスは、自分からは何も行なわず（ヨハネ 5:19）、自分の働きを行なわず（4:34. 17:4）、自分の言葉を語らず（14:10, 24）、自分の意志によって何も行なわず（5:30）、自分の栄光を求めませんでした（7:18）。彼は決して失望しませんでした。なぜなら、彼はただ神だけに満足していたからです（イザヤ 42:4. 50:4-5. 53:2 前半. 参照、ヨハネ 4:13-14. 6:15. マルコ 9:7-8）：

- A. 主の生活は彼の働き、彼の行動、彼の務めでした。彼の働きは彼の生活であり、彼の行動は彼の存在でした。彼にとって、彼の生活、彼の働き、彼の行動、彼の務めの間には何の違いもありませんでした。主イエスは彼の務めを生きました——参照、ルカ 22:26-27. ヨハネ 10:10 後半. I コリント 15:45 後半. I ヨハネ 5:16 前半. II コリント 3:6. ペリピ 1:25。
- B. 主イエスは祈りの人でした。彼は、しばしば山へ行ったり、ひそかな場所に退いたりして、祈りました——マタイ 14:23. マルコ 1:35. ルカ 5:16. 6:12. 9:28。
- C. 彼は五千人を養う奇跡の後、弟子たちを強いて彼から去らせました。それは彼が御父にひそかに祈るさらに多くの時間を持つためでした——マタイ 14:22-23：
 - 1. 天の王は、御父の愛する御子として（3:17）、人の立場に立ち（4:4）、天におられる彼の御父にひそかに祈る必要がありました。それは、彼が御父と一になり、彼が天の王国の設立のために地上で行なわれるどんな事においても、御父と共にいるためでした。
 - 2. 彼がこれを行なったのは、荒野ではなく、山の上であり、すべての人から、さらには彼の弟子たちから離れて、ただ一人、御父と接触しました。
- D. 彼は祈りの人であり、神と一であったので、決して独りではありませんでした。なぜなら、御父が彼と共におられたからです。あらゆる瞬間、彼は御父の御顔を見ていました——ヨハネ 5:19. 16:32. 詩 16:7-8. 参照、27:8。

Ⅳ. わたしたちが神ご自身である愛の中に住むとき、愛は「わたしたちの中で全うされました。それは、わたしたちが裁きの日に大胆さを持つためです。なぜなら、彼がそうであるように、わたしたちもこの世でそうであるからです」（I ヨハネ 4:17）。全焼のささげ物の実際としてのキリストはこの世で、愛としての神を生かし出す生活をしました。そして彼が今やわたしたちの命であるのは、わたしたちがこの世で同じ愛を生かし出す生活をして、彼と同じになるためです（3:14. 5:1. 2:6）

- A. わたしたちの霊の中の命の霊の法則は、キリストの律法であり、愛の律法（愛の法則）でもあります（ローマ 8:2. ガラテヤ 6:2）。愛の律法は、命の霊の法則によって実体化されなければなりません。それは、わたしたちが互いに重荷を負い合うことができるためです。しかし、もしわたしたちが高ぶりで満たされているなら、他の人の重荷を負うことができないでしょう。なぜなら、わたした

ちは、自分が何者でもないのに自分をひとかどの者と考えていることによって、自分を欺いているからです（3節）。

- B. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、わたしたちは自動的にまた自然に牧する者となって、わたしたちの父なる神の愛し赦す心と、わたしたちの救い主キリストの牧養し捜し求める霊を持ちます——ヨハネ 21:15-17. ルカ 15:3-7。
- C. 愛の法則がわたしたちの内側で発動するとき、主にあるわたしたちの労苦は愛の労苦となります（I コリント 15:58. I テサロニケ 1:3）。わたしたちはその中で「弱い人たちを支え」（使徒 20:35）、「弱い者を支え」ます（I テサロニケ 5:14）。「弱い人たち」は、彼らの霊、魂、体において弱い人たち、あるいは信仰の弱い人たちを指しています（ローマ 14:1. 15:1）。
- D. 主は復活した後、ペテロを牧養して、ペテロに彼の小羊を養い、彼の羊を牧養するよう委託しました。これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れ、すなわち、召会を顧みることです。この事の結果、キリストのからだは建造され、新エルサレムにおいて究極的に完成して、神の永遠のエコノミーを成し遂げます——ヨハネ 21:15-17。

神聖な種族の領域としての神の王国の中で生きることによって、
神・人の生活をする

聖書：マルコ 1:15. ヨハネ 3:3, 5-6, 1:12-13. IIペテロ 1:4. Iヨハネ 3:1

- I. わたしたちは神から生まれているので神の種族です。すなわち、わたしたちは神格においてではなく命と性質において神です——ヨハネ 3:3, 5-8。
- II. 神・人たちは、神の種族にあずかるための神聖な権利を持っています——ヨハネ 3:3, 5-6, 18:36。
- III. キリストにある信者として、わたしたちは神・人の生活をしています——マルコ 1:15. ヨハネ 14:17 後半, 20. ローマ 8:9 前半, 10. ガラテヤ 5:25 :
 - A. キリストの中で、神は人の中へと構成され、人は神の中へと構成され、神と人は共にミングリングされて一つの実体となっています。それは神・人と呼ばれます——マタイ 1:21, 23. ルカ 1:35. テトス 2:13. Iテモテ 2:5。
 - B. 神・人たちは、神の子たちは、第一の神・人であるキリストの複製また継続です——ヨハネ 12:24. ヘブル 2:10. ローマ 8:29。
 - C. 神・人は、神から生まれて神の命と性質にあずかっており、命と性質において神と一になり、こうして神を表現する人です——ヨハネ 1:12-13, 3:15. IIペテロ 1:4. Iコリント 6:17。
 - D. 神・人は神で構成され、神を彼の命、性質、すべてとして持っています。神・人は人であるが神であり、神であるが人です——エペソ 3:16-17 前半。
 - E. キリストの人の生活は、人が神を生きて、神聖な属性で満たされ、ミングリングされ、浸透された人性の美徳において、神の属性を表現することでした——ルカ 1:26-35, 7:11-17, 10:25-37, 19:1-10。
 - F. わたしたちは、第一の神・人の増殖また複製として、彼が生きたと同じ種類の生活をすべきです：
 1. 主の神・人の生活は、わたしたちの神・人の生活の模範を設立しました。この模範は、十字架につけられて神を生き、それによって神が人性において表現されることです——ガラテヤ 2:20。
 2. 主イエスは、霊的で、聖い、勝利の生活を生かし出そうとしたのではありません。彼が生かし出した生活は、完全に神の新約エコノミーにしたがっており、神の新約エコノミーのためでした。
 3. 四福音書において、イエスが神・人の生活を生かし出しているのを見ます。使徒行伝において、弟子たちもそのような生活を生かし出しているのを見ます。
 4. キリストは苦難の生活、すなわち苦難を受けた生活をしました。今や、わたしたちはキリストのパートナーであり、同じ種類の生活をしています。わたし

たちがキリストのために苦難を受けるとき、わたしたちの苦難はキリストの苦難として神によって数えられます——ヘブル 3:14。

5. わたしたちはキリストの霊の満ちあふれる供給によって、自己を否み、キリストの死に同形化され、彼を大きく表現しなければなりません——マタイ 16:24. ピリピ 3:10. 1:19-21 前半。
6. 神・人の生活をした方は、今やその霊であり、わたしたちの中で、わたしたちを通して生きています。わたしたちは自己啓発と自分の天然の人を建て上げることを拒絶し、この方以外の何にも、わたしたちを満たし占有させてはなりません。それは、わたしたちが個人的にも彼のからだである召会の中で団体的にも、彼を生き、彼を表現するためです——エペソ 3:16-19. 1:22-23。

IV. キリストにある信者として、わたしたちは神の王国の中で生きています——ローマ 14:17 :

- A. 神の王国は、神ご自身です——マルコ 1:15. マタイ 6:33。
- B. 神の王国は、キリストにある神が、神聖な命とそのすべての活動との総合計であることです——ヨハネ 11:25. 10:10 後半. 14:6。
- C. 神の王国は、神聖な命の領域であり、この命が行動し、働き、支配し、統治して、命にその目的を完成させます。
- D. 神の王国は、神の命で構成された有機体であり、神が支配する命の領域です。その中で神は彼の命によって王として支配し、神聖な命の中で神聖な三一としてのご自身を表現します——15:1-8, 16, 26。
- E. 神の王国は、一つの領域であり、神聖な統治の領域であるだけでなく、神聖な種族の領域でもあって、その中にすべての神聖なものがあります——3:3, 5-6。

18:36 :

1. ヨハネ第3章で、神の王国は神の統治よりも神の種族を指しています。
2. 神は人と成って、人の種族の中へと入りました。人は神格においてではなく命と性質において神となって、神聖な種族の領域の中へと入ります——1:1, 12-14. ローマ 8:3. 1:3-4。
3. 神聖な種族の領域の中へと入るために、わたしたちは神から生まれて、神聖な命と神聖な性質を持つ必要があります——ヨハネ 1:12-13. 3:3, 5-6, 15。

II ペテロ 1:4 :

- a. 神が人を創造したのは、人の種類にしたがってではなく、神のかたちに、また神の姿にしたがってであり、人を神の種類、神の種族とさせました——創 1:26。
- b. 信者たちは再生によって神から生まれ、神格においてではなく命と性質において神の子供たちとなっています。彼らはアダムよりもさらに神の種類です——ヨハネ 1:12-13 :

- (1) アダムは、神聖な命の外側の現れを持っているだけであって、神聖な命の内側の実際を持っていませんでした。
- (2) わたしたち、キリストにある信者また神の子供たちは、神聖な命の実際を持っています。そしてわたしたちは全存在が造り変えられて、主のかたちに同形化されつつあります——Ⅱコリント 3:18. ローマ 12:2. 8:29。
- (3) わたしたちの第二の誕生、すなわち再生は、わたしたちを神の王国の中へと入れ、神の種族とならせました——ヨハネ 3:3, 5-6。
- (4) わたしたちは再生されて神類となっています。神の子たちとして、わたしたちは神の種類、神の種族です——ローマ 8:19. ヘブル 2:10。
- (5) 神のすべての子供たちは、神聖な種族の神聖な領域の中にいます——ヨハネ 1:12-13. 3:3, 5。
- (6) 信者たちは神聖な種族の中で、すなわち、神の王国の中で神・人です——Ⅰヨハネ 3:1 前半. ヨハネ 3:5。

F. わたしたちは命の感覚によって、神聖な命の領域としての神の王国の中で生きます——ローマ 8:6。

G. 召会の中で、今日わたしたちは神の王国の中で生活しています。ローマ第 14 章 17 節は、今日の召会生活が王国であることの強力な証拠です。

H. わたしたちは、わたしたちの新創造（神の王国の要素としてのキリストご自身）となっているその部分を活用するとき、神の王国の中に生きているのです。

I. 勝利者は、キリストと神との王国を受け継いで、天の王国の実現の中へと入ることができます——Ⅱテモテ 4:18。

V. **ヨハネによる福音書の中でわたしたちは、神聖な種族の領域の中の信者たちの生活の多くの面を見ます——ヨハネ 1:16. 15:4 前半, 9, 11. 4:23-24. 14:2, 20, 23. 17:22-24 :**

- A. 「わたしたちはみな、彼の豊満から、恵みの上にさらに恵みを受けた」——1:16。
- B. 「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」——4:14 後半。
- C. 「わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる」——6:57 後半。
- D. 「だれでもわたしに仕えるなら、その人はわたしについて来なさい。そうすれば、わたしのいる所に、わたしに仕える者もいるのである。だれでもわたしに仕えるなら、父はその人を尊ばれる」——12:26。
- E. 「わたしの父の家には多くの住まいがある。……わたしは……あなたがたのために、場所を用意しに行くのである」——14:2。
- F. 「その日には、わたしがわたしの父の中におり、あなたがたがわたしの中におり、わたしがあなたがたの中にいることを、あなたがたは知るであろう」——20 節。

- G. 「だれでもわたしを愛する者は、わたしの言を守る。そしてわたしの父は彼を愛され、わたしたちは彼の所へ行って、彼と共に住まいを造る」——23 節。
- H. 「わたしの中に住んでいなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中に住む」——15:4 前半。
- I. 「あなたがたがわたしの中に住んでおり、わたしの言葉があなたがたの中に住んでいるなら、何でも望むものを求めなさい。そうすれば、それはあなたがたにかなえられる」——7 節。
- J. 「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛した。わたしの愛の中に住んでいなさい」——9 節。
- K. 「これらの事をあなたがたに語ったのは、わたしの喜びがあなたがたの中にあり、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである」——11 節。
- L. 「わたしがこれらの事をあなたがたに語ってきたのは、あなたがたがわたしの中で、平安を持つためである」。「わたしの平安をあなたがたに与える」——16:33 前半、14:27 後半。
- M. 「聖なる父よ、あなたがわたしに与えてくださったあなたの御名の中で、彼らを守ってください。それは、わたしたちのように、彼らが一となるためです」——17:11 後半。
- N. 「あなたがわたしに与えてくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。それは、わたしたちが一であるように、彼らも一となるためです」——22 節。
- O. 「わたしが彼らの中におり、あなたがわたしの中におられるのは、彼らが成就されて一となるためです」——23 節前半。
- P. 「父よ、わたしがお願いするのは、あなたがわたしに与えてくださった者たちも、わたしがいる所に共におり、あなたがわたしに与えてくださったわたしの栄光を、彼らが見ることです」——24 節前半。

使徒の務めはキリストの天の務めと協力して
神の羊の群れとしての神の召会を牧養し
キリストのからだを建造し、新しい復興を持つ

聖書：ヨハネ 10:11, 16, 21:15-17. I ペテロ 2:25, 5:4.

ヘブル 13:20, 啓 1:13, 2:1, 7

- I. 詩篇第 22 篇から第 24 篇はキリストを啓示する一組の詩であり、彼の十字架から、彼の牧養を通して、来たるべき時代における彼の王職まで述べています：
- A. 詩篇第 23 篇は、復活と昇天における牧者としてのキリストに関してであり、第 22 篇のキリストの贖いの死と彼の召会を生み出す復活と、第 24 篇のキリストが王として戻って来て、彼のからだとしての召会を通して全地を再び得ることの間の架け橋です。
 - B. キリストは彼の天の務めにおいて人々を牧養しており、わたしたちは彼と協力して人々を牧養する必要があります。もしわたしたちがこの交わりを受け入れるなら、地上に大きな復興があるようになり、主の再臨をもたらします。
- II. ヨハネ第 21 章は、使徒の務めがキリストの天の務めと協力することを啓示しています。ヨハネ第 21 章は、ヨハネによる福音書の完成と総括です：
- A. ヨハネによる福音書には二十一の章がありますが、実際は第 20 章で終わっています。
 - B. 本書全体はキリストの地上の務めを取り扱っており、彼が神の言として肉体と成って、肉体にある人と成ることで始まり (1:14)、彼が最後のアダムとして復活して、命を与える霊と成ることで終わっています (20:22)。ですから、第 21 章は補記であるはずでず。
 - C. このように言うことは正しいのですが、さらに内在的に言うと、ヨハネ第 21 章はヨハネによる福音書の完成と総括です。ヨハネ第 21 章は、ヨハネによる福音書全体を総括して、キリストの天の務めと使徒たちの務めが地上で共に協力して、神のエコノミーを完成することを見せています。
- III. ヨハネ第 10 章 10 節から 11 節と 16 節で、主が弟子たちに明らかにしたことは、彼が良い牧者であって、彼が来たのは羊が豊かに命を持つためであるということ、また彼には他の羊 (異邦人) もいて、彼はこれらの他の羊を導いて彼ら (ユダヤ人信者たち) と結合して一つの群れ (一つの召会) とならせ、ひとりの牧者の下に帰させなければならないということです：
- A. 主の牧養することは、第一に彼の地上の務めにおいてでした——マタイ 9:36. 参照、10:1-6。
 - B. 主の牧養することは、第二に彼の天の務めにおいてであり (I ペテロ 5:4)、神

の召会を顧み、彼のからだという結果になります。

IV. 主はペテロに、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養することを託しました：

- A. 主は復活の後、昇天の前に、彼の弟子たちと共にとどまっていた時、彼が何回か現れたうちの一回において、彼が天にいてここにはいない間、彼の小羊を養い、彼の羊を牧養することをペテロに託しました——ヨハネ 21:15-17。
- B. これは、使徒の務めとキリストの天の務めを合併して、神の羊の群れを顧みることです。神の羊の群れは召会であり、それはキリストのからだという結果になります。
- C. 後ほど、使徒行伝の中で、ペテロは言いました、「わたしたちは、祈りと言の務めを堅く持ち続けることにしましょう」（6:4）。これは、キリストの天の務めと協力することです。この務めはとりなしの務めであり（ヘブル 7:25）、また神を彼の人々の中へと供給する務めです（8:2）。
- D. ペテロは主のこの委託にとっても印象づけられたので、彼の第一の手紙で信者たちに、彼らは羊のようにさまよっていたが、今は、彼らの魂の牧者また監督者に立ち返ったと告げています——I ペテロ 2:25：
 - 1. キリストはわたしたちに内住して、わたしたちの命またすべてとなっていますが、彼はまたわたしたちの内なる存在の状態と状況を監督し、観察しています。
 - 2. 彼がわたしたちを牧養するのは、わたしたちの内なる存在の益を顧みることにより、またわたしたちの魂（わたしたちの実際のパーソン）の状態を監督することによります——参照、ヘブル 13:17。
- E. ペテロは長老たちに、彼らの間の神の羊の群れを牧養するよう勧めています。それによって、牧者の長が現れる時、彼ら、忠信な長老たちは、しばむことのない栄光の冠を受けます——I ペテロ 5:1-4。
- F. ペテロの言葉が示しているのは、キリストの天の務めはおもに神の召会を牧養することであり、その召会は彼の羊の群れであり、彼のからだという結果になるということです。

V. 使徒パウロの以下の言葉も、使徒の務めがキリストの天の務めと合併して、神の羊の群れを顧みることを見せています：

- A. 使徒第 20 章 28 節で、パウロはエペソの長老たちに告げました、「あなたがた自身と群れ全体に気をつけなさい。聖霊は彼らの間に、あなたがたを監督として立てられ、神がご自身の血を通して獲得された [あるいは、買い取られた] 神の召会を牧養させるのです」。
- B. パウロは言いました、「わたしが去った後、凶暴なおおかみどもがあなたがたの間に入って来て、羊の群れを惜しまないことを、わたしは知っています」（29 節）。使徒は自分の命を顧みず（24 節）、召会の前途を非常に心配していまし

た。召会は、彼の宝であり、また神の宝です。

C. パウロはヘブル第 13 章 20 節で言います、「神 [は] ……永遠の契約の血による羊の大牧者であるわたしたちの主イエスを死人の中から引き上げた」：

1. この永遠の契約は新しい遺言の契約であり、それは羊の群れ、すなわち召会を得るためであって、その結果はキリストのからだであり、新エルサレムを究極的に完成します。神の永遠の契約は、牧養することによって新エルサレムを究極的に完成することです。
2. 神がわたしたちの主を死人の中から復活させたのは、彼を大牧者とならせて、神の永遠の契約にしたがって新エルサレムを究極的に完成させるためです。

VI. キリストの天の務めと合併された使徒の務めの主要な目的また目標は、キリストのからだを建造することであり、それは新エルサレムを究極的に完成し、神の永遠のエコノミーを成し遂げます——参照、エペソ 3:2, 8-9. I ペテロ 5:10。

VII. 神の永遠のエコノミーの主要な目的と究極的完成のために神の羊の群れを牧養するこの事柄は、雅歌でも言及されています：

- A. 「わたしの魂の愛する方、わたしに教えてください。あなたはどこであなたの羊の群れを [満足のために] 飼っているのですか？ 昼にはどこで [安息のために] 伏させるのですか？」——雅 1:7 前半。
- B. 「出て行って羊の群れの足跡に従い、そして羊飼いの天幕のそばで、あなたの子やぎを飼いなさい」——8 節後半。
- C. 「わが愛する方はわたしのもの、わたしは彼のもの、彼はゆり [単一な心で神に信頼する生活をする、キリストを追い求める者] の間で群れを牧養しています」——2:16。
- D. 「わたしはわが愛する方のもの、わが愛する方はわたしのもの、彼はゆりの間で群れを牧養しています」——6:3。

VIII. 信者たちを牧養することは、彼らが命において成長するために極めて重要です。わたしたちは牧養の道を取って、福音を宣べ伝え、召会を復興しなければなりません：

- A. わたしたちはこのように祈るべきです、「主よ、わたしは復興されたいです。今日からわたしは牧養する者になりたいです。わたしは行って人を養い、人を牧養し、人を群れとならせたいです」。
- B. ヨハネ第 10 章と第 21 章で、主は牧養することに関して三つの言葉を用いました。それは、「養いなさい」、「牧養しなさい」、「群れ(とする)」です (10:16. 21:15-16)。わたしたちは「群れ」という言葉を動詞として用いることもできます。
- C. すべての召会は、どのようにして人を共に群れとならせて、彼らが共にブレンディングされることができるようにするかを学ばなければなりません。長老と同

労者たちは、率先してこの事を実行すべきです。

IX. 金の燭台を有機的に維持することは、キリストの天の務めであって、彼の人性において諸召会をはぐくみ、また彼の神性において諸召会を養って、彼の有機的な牧養を通して勝利者を生み出すことです——啓 1:13. 2:7. ヨハネ 10:11, 14. I ペテロ 2:25. 5:4. ヘブル 13:20 :

A. 人の子は彼の人性の中にあり、金の帯は彼の神性を表徴し、胸は愛のしるしです :

1. キリストは腰に帯を締め、神聖な働きのために強められて (出 28:4. ダニエル 10:5) 、諸召会を生み出しました。しかし今、彼は胸に帯を締めており、彼の愛によって彼が生み出した諸召会を顧みています (啓 1:13) 。
2. 金の帯は、キリストの神聖な活力としてのキリストの神性を表徴します。胸は、この金の活力が彼の愛によって、また彼の愛をもって行使され、動機づけられて諸召会を養うことを表徴します。

B. キリストは人の子として、彼の人性において諸召会を顧みて、諸召会をはぐくんでいます——啓 1:13 前半 :

1. 彼は燭台のともし火を整えて、それを適切にし、わたしたちをはぐくんで、わたしたちを幸いにし、喜ばせ、心地良くさせています——出 30:7. 参照、詩. 42:5, 11 :
 - a. 主の臨在は優しくて温かい雰囲気をもたらして、わたしたちの存在をはぐくみ、わたしたちに安息、慰め、いやし、清め、励ましを与えます。
 - b. わたしたちは召会において主の臨在のはぐくむ雰囲気を享受して、養う命の供給を受けることができます——エペソ 5:29. 参照、I テモテ 4:6. エペソ 4:11。
2. 彼は燭台の灯心を切り取り、わたしたちが輝くのを妨げるすべての消極的な事柄を切り落とします——出 25:38 :
 - a. 灯心の焦げた部分、すなわち灯花は、神の定められた御旨にしたがっておらず、切り落とされる必要のある事柄を表徴します。それはわたしたちの肉、天然の人、自己、旧創造などです。
 - b. 彼は諸召会の間にあるすべての違い (過ち、短所、失敗、欠点) を切り取ります。それによって諸召会は、本質、外観、表現において同じになります——参照、I コリント 1:10. II コリント 12:18. ピリピ 2:2。

C. キリストは彼の神性において、彼の胸にある金の帯によって表徴される神聖な愛をもって諸召会を顧み、諸召会を養っています——啓 1:13 後半 :

1. 彼は三つの時期の満ち満ちた務めにおいて、すべてを含むキリストとしてのご自身をもってわたしたちを養います。それによってわたしたちは神聖な命において成長し円熟して、彼の勝利者となって、彼の永遠のエコノミーを完

成します。

2. 彼は歩くキリストとして各召会の状態を知ります。また彼は語る霊として燭台を整え、新鮮な油、すなわち、その霊の供給をもって燭台を満たします——
2:1, 7. 参照、出 27:20-21. ゼカリヤ 4:6, 11-14。
 3. わたしたちは彼の行動にあずかり、彼の顧みを楽しむために、諸召会の中に
いなければなりません。
- X. キリストのすばらしい牧養を通して、わたしたちは今日も、また永遠にわたって
彼をわたしたちの祝福として享受します——イザヤ 49:10. 啓 7:9-17. ヨハネ
6:35. 4:13-14. 詩 36:7-9. 91:1. イザヤ 12:1-6. 啓 22:1。

©2026 *Living Stream Ministry*

神にしたがって牧養する

聖書：ヨハネ 21:15-17. 使徒 20:28. I ペテロ 5:2, 4. エペソ 4:16

- I. 今日の主の回復には、牧養するという緊急の必要があります。
- II. 牧養することは、すべてを含む優しい顧みを羊の群れになすことです——ヨハネ 21:15-17. 使徒 20:28 :
 - A. 牧養は、羊のすべての必要を顧みることを指しています。
 - B. すべての羊は十分な備えを得て、良い世話を受ける必要があります。
- III. キリストは良い牧者、大牧者、牧者の長、わたしたちの魂の牧者です——ヨハネ 10:9-17. ヘブル 13:20-21. I ペテロ 5:4. 2:25 :
 - A. 主イエスが良い牧者として来たのは、わたしたちが命を得、しかも豊かに得るためです——ヨハネ 10:10-11 :
 1. 彼は、ご自身の魂の命、すなわち人の命を捨て、ご自身の羊のために贖いを完成しました。それは彼らが彼の「ゾーエ」の命、すなわち彼の神聖な命にあずかるためです——11, 15, 17 節。
 2. 彼はご自身の羊を囲いから連れ出して、牧場、すなわち養う場所としてのご自身の中へと導きます。そこにおいて彼らは自由に彼を食べ、彼によって養われます——9 節。
 3. 主はユダヤ人信者と異邦人信者たちをご自身の牧養の下で、一つの群れ（召会、キリストのからだ）へと形成しました——16 節。
 - B. 神は「永遠の契約の血による羊の大牧者であるわたしたちの主イエス」を死人の中から復活させました——ヘブル 13:20 :
 1. 永遠の契約は、牧養することによって新エルサレムを究極的に完成することです。
 2. 永遠の契約は新しい遺言の契約であって、群れ、すなわち召会を得るためであり、その結果は、キリストのからだであり、新エルサレムにおいて究極的に完成します。
 - C. キリストは牧者の長として、諸召会の長老を通してご自身の羊の群れを牧養します——I ペテロ 5:4 :
 1. 長老が牧養することがなければ、召会は建造されることができません。
 2. 長老が牧養することは、キリストが彼らを通して牧養することであるべきです。
 - D. 霊なるキリストはわたしたちの魂の牧者として、わたしたちの内側の状態を監督し、わたしたちの内なる存在の状況を顧みます——I ペテロ 2:25 :
 1. 彼は、わたしたちの魂の益を顧みることによって、またわたしたちの内なる存

在の状態を監督することによって、わたしたちを牧養します。

2. わたしたちの魂はとても複雑なので、わたしたちの霊の中の命を与える霊であるキリストが、わたしたちの魂の中でわたしたちを牧養することと、またわたしたちの思い、感情、意志と、わたしたちの問題、必要、傷を顧みることとを、わたしたちは必要とします。

IV. わたしたちは神にしたがって牧養するために、神と一になり、神で構成され、神を生き、神を表現し、神を代行し、神を供給する必要があります :

- A. 神にしたがって牧養することは、わたしたちが神と一となることと、神で構成されることを必要とします——ヨハネ 14:20. I コリント 6:17. エペソ 3:17 前半. コロサイ 3:10-11 :
- B. 神を生きている人だけが、神にしたがって牧養することができます——ピリピ 1:21 前半 :
- C. 神の永遠の定められた御旨は、ご自身を命としてわたしたちの中へと造り込んで、わたしたちに彼を表現させることです——創 1:26. エペソ 1:11. 3:11. II テモテ 1:9.
- D. わたしたちは神にしたがって牧養する人たちとして、神を代行し、代理の神として機能する必要があります——II コリント 1:3-4, 12, 15-16. 2:10. 10:11. 11:2.
- E. 神にしたがって牧養することは、神を人に供給することです :
 1. わたしたちがどれほど人に神を供給することができるかは、わたしたちが命の流れ出のために神によって砕かれていることにかかっています——II コリント 4:10-12, 16. ヘブル 4:12.
 2. もしわたしたちが互いに神を供給しようとするなら、恵み、真理、霊、命の言葉を語り、わたしたちの存在の中へと造り込まれた手順を経た神を供給する必要があります——エペソ 3:16-17 前半. 4:25, 29. ヨハネ 6:63.

V. ペテロは長老たちに、神にしたがって神の群れを牧養するように命じました——

I ペテロ 5:2 :

- A. 「神にしたがって」とは、わたしたちが神を生きなければならないことを意味します。
- B. わたしたちは神と一であるとき、他の人たちを牧養することで神となり、神です。
- C. 神にしたがって牧養することは、神の性質、願い、方法、栄光にしたがって牧養することであって、わたしたちの好み、関心、目的、個性にしたがって牧養することではありません。
- D. 神にしたがって牧養することは、神が彼の属性において何であるかにしたがって牧養することです。

E. わたしたちは、神にしたがって牧養するために、命、性質、表現、機能において神となる必要があります：

1. わたしたちは神聖な命であふれるばかりに満たされて、三一の神を源泉、泉、川として享受し、神聖な命の総合計となり、神聖な命そのものとさえなる必要があります——ヨハネ 4:14. コロサイ 3:4。
2. わたしたちは、神の愛、光、義、聖という属性において神となる必要があります。
3. わたしたちはキリストの複製、すなわち神の表現となって、わたしたちの牧養において神を表現する必要があります、わたしたちの自己をその個性また特異性と共に表現してはなりません。
4. わたしたちは神の機能において神となり、彼であることにしたがって、また彼のエコノミーにおける目標にしたがって、神の羊の群れを牧養する必要があります。

VI. キリストのからだを建造する牧養は、相互の牧養です—— I コリント 12:23-26 :

- A. わたしたちはみなキリストの有機的な牧養の下におり、彼と一になって人を牧養する必要があります——ヨハネ 21:15-17。
- B. すべての信者は、命における成長にかかわらず、牧養を必要とします。
- C. わたしたちはみな欠点や短所を持っており、他の人にわたしたちを牧養してもらう必要があります。
- D. わたしたちは羊であり、また牧者であって、相互性の中で牧養し、牧養されます。
- E. この相互の牧養を通して、からだは愛の中でそれ自身を建て上げます——エペソ 4:16。